



2015年3月期決算説明会

パイオニア株式会社
代表取締役 兼 社長執行役員
小谷 進

2015年5月12日

発表のポイント

1. 2015年3月期連結決算実績:

- 営業利益は、前期との比較では、売上の減少や為替影響などにより、計画比では、売上の減少や原価率の悪化に加え、事業譲渡の影響もあり、前期実績、計画をともに下回った
- 当期純利益は、DJ機器事業の譲渡等による特別利益の計上などにより、前期実績を上回った

2. 2016年3月期連結業績予想:

- 事業ポートフォリオの再編により売上は減収となるが、構造改革によるコスト削減の効果等により、売上4,870億円、営業利益80億円、純利益10億円を見込む

3. トピックス:

- カーエレクトロニクスの収益改善について

本日の説明

1. 2015年3月期 連結決算
2. 2016年3月期 連結業績予想
3. トピックス

当プレゼンテーション中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報、将来の事象、その他の結果によってこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向や当社が製品等を供給する業界の動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上するユーロ、米ドル、その他の通貨と円との為替レート、(3)競争の激しい市場において、顧客から受け入れられる製品を継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)他社との合併、提携またはその他事業関係の成功、(6)資金調達能力、(7)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(8)製品に関する品質管理能力、(9)生産に必要な重要部品を継続して調達し得る状況、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

1. 2015年3月期連結決算

2015年3月期：通期連結業績概要

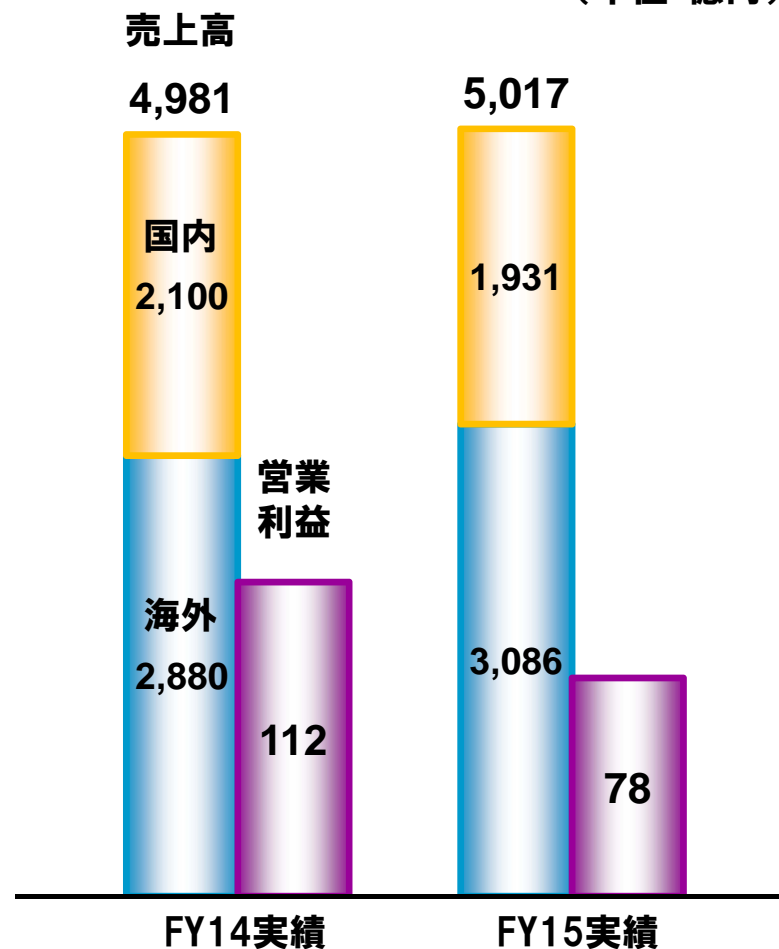
(単位:億円)

	FY15実績	FY14実績	前期比
売上高	5,017	4,981	100.7%
営業利益	78	112	69.6%
経常損益	-29	51	-
特別利益	281	6	50.8倍
当期純利益	146	5	27.6倍

為替平均 レート	1USドル	109.93円	100.24円	+8.8%
	1ユーロ	138.77円	134.37円	+3.2%

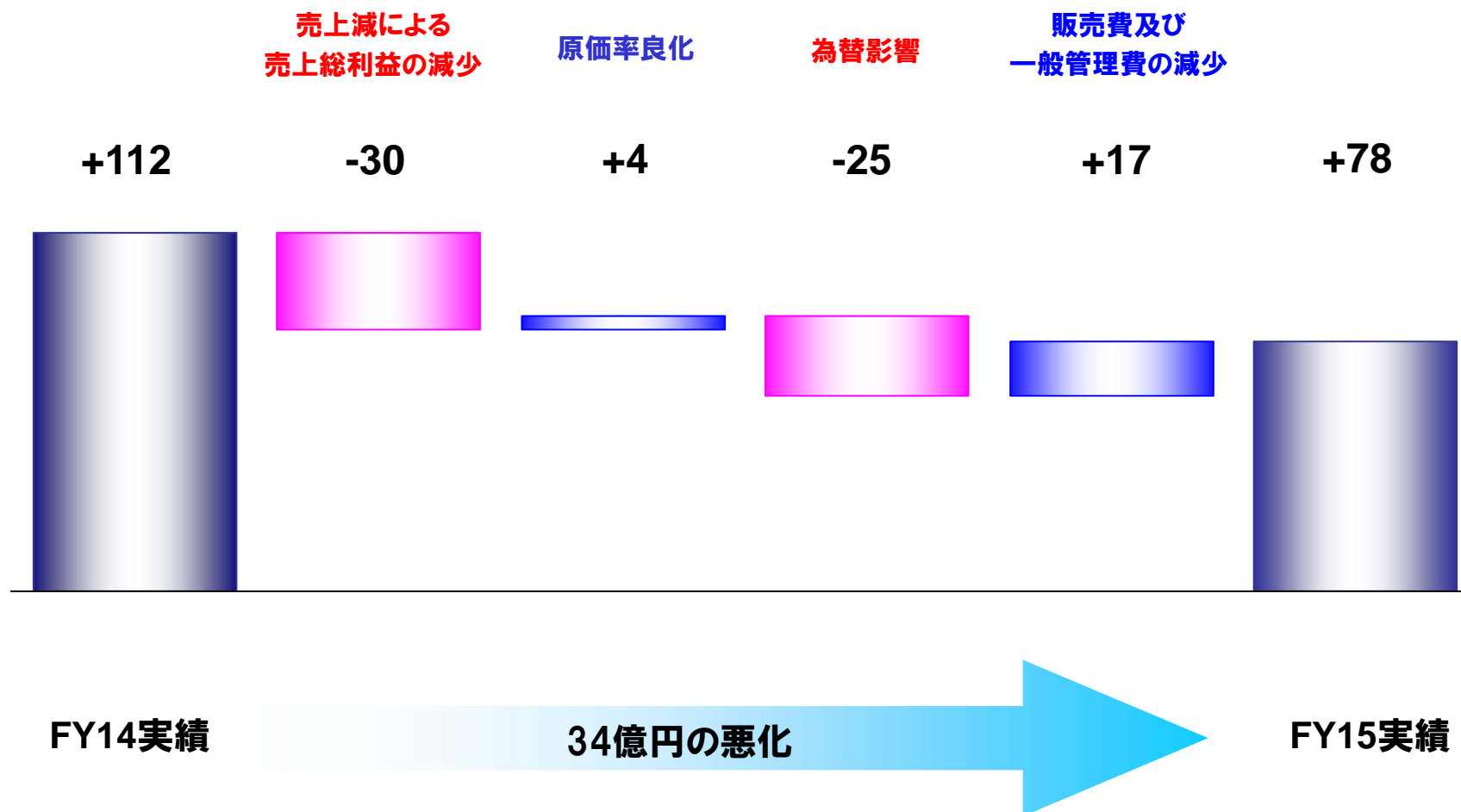
1株当たり純利益	39.85円	1.49円	+38.36円
ROE	16.8%	0.7%	+16.1%
1株当たり純資産	277.05円	197.33円	+79.72円
ROA	4.5%	0.2%	+4.3%

(単位:億円)



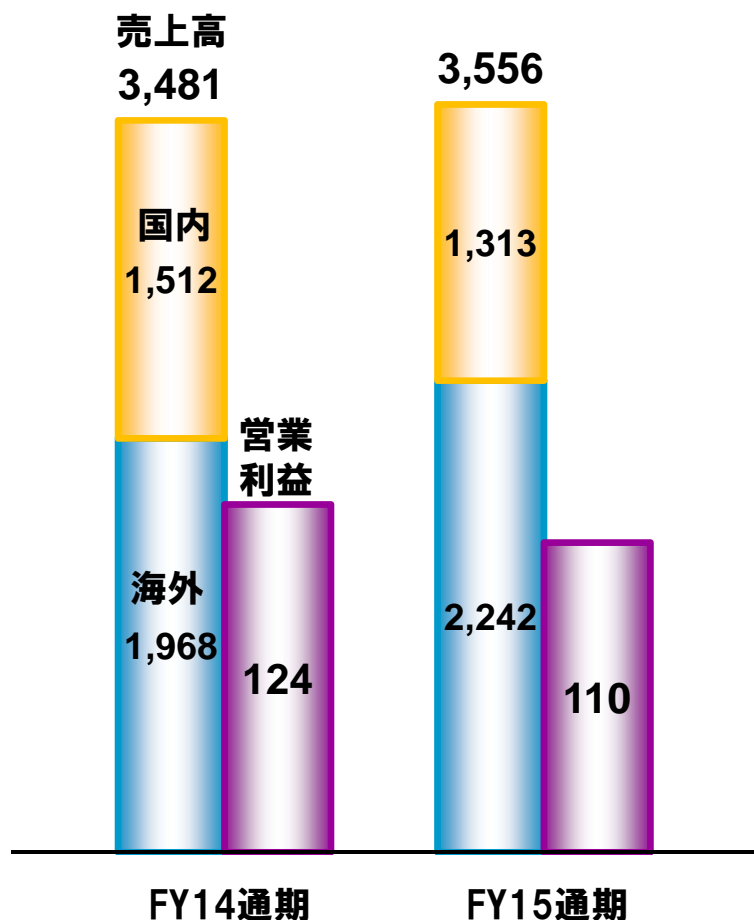
2015年3月期 営業利益増減要因

(単位:億円)



2015年3月期：カーエレクトロニクス 売上高・営業利益

(単位:億円) < 売上高 > OEM比率 57% (前期 54%)



前期比	102% (国内 87%、海外 114%)
増収要因	OEMカーオーディオ (CD・AV・スピーカー) OEMカーナビゲーションシステム
減収要因	市販カーナビゲーションシステム

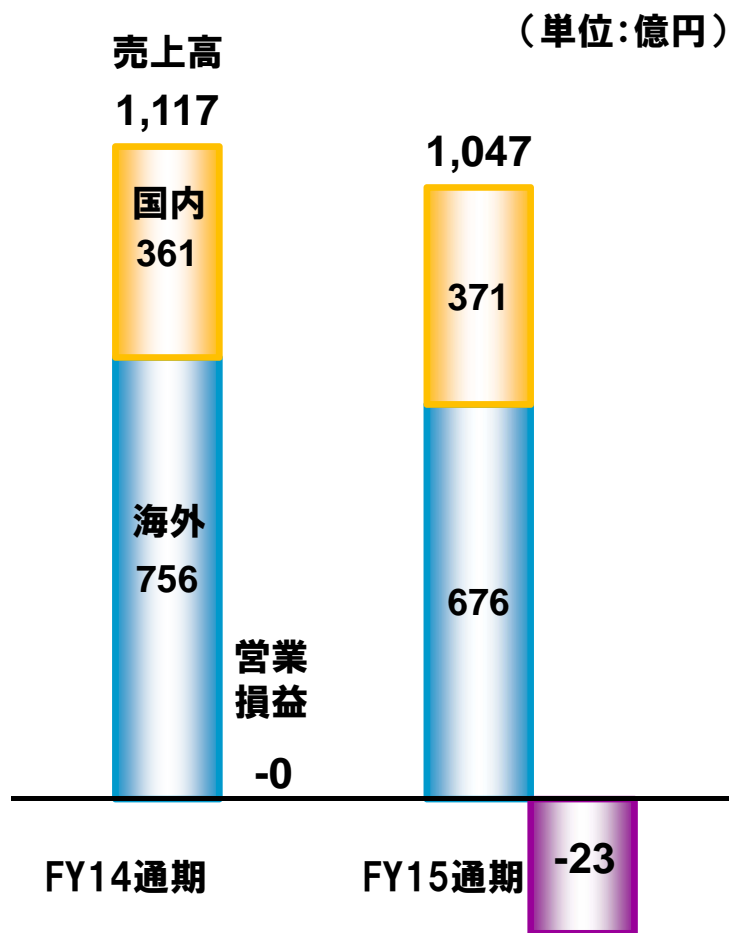
< 営業利益 >

前期比	14億円の悪化
良化要因	原価率良化 (+27億円)
悪化要因	為替影響 (-16億円) 販売費及び一般管理費の増加 (-13億円) 売上減に伴う売上総利益減少 (-12億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
カーナビゲーションシステム、カーステレオ、カーAVシステム、
カースピーカー

注)セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表しています。

2015年3月期：ホームエレクトロニクス 売上高・営業損益



< 売上高 >

前期比	94% (国内 103%、海外 89%)
増収要因	光ディスクドライブ関連製品
減収要因	ホームAV製品、DJ機器

< 営業損益 >

前期比	23億円の悪化
良化要因	販売費及び一般管理費の減少(+21億円)
悪化要因	売上減に伴う売上総利益減少(-22億円) 原価率悪化(-12億円) 為替影響(-9億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:

AVシステム、オーディオコンポーネント、DJ機器、CATV関連機器、ブルーレイディスクプレーヤー、ブルーレイディスクドライブ、DVDプレーヤー、DVDドライブ、AVアクセサリ、電話機

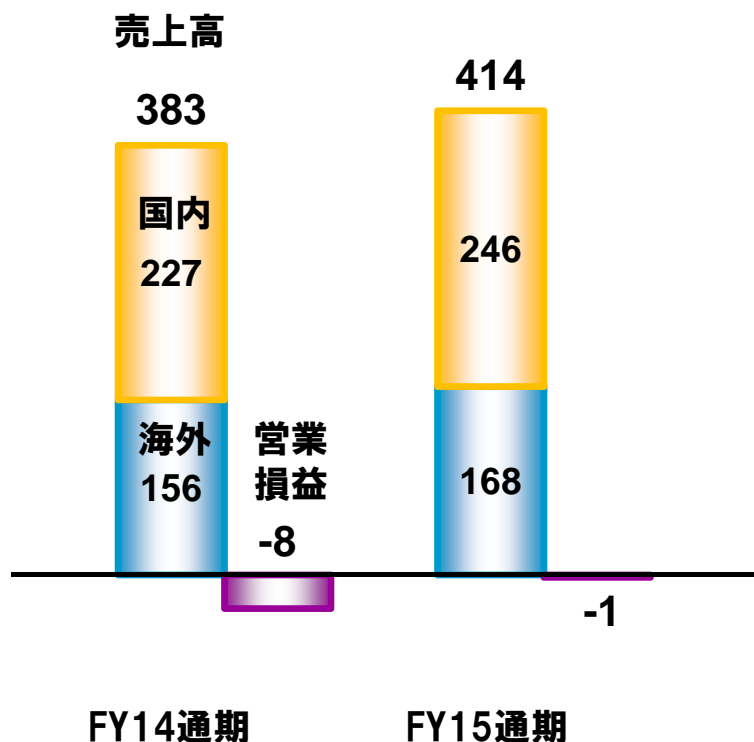
注) 1. セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表しています。

2. 従来「その他」に含まれていた電話機を、当期から「ホームエレクトロニクス」に含めています。これに伴い、前期の金額についても、当期の表示に合わせて組替表示しています。

3. 2015年3月2日に、ホームAV事業、電話機事業、ヘッドホン関連事業およびDJ機器事業を譲渡しました。

2015年3月期： その他 売上高・営業損益

(単位:億円) < 売上高 >



前期比	108% (国内 108%、海外 108%)
増収要因	FA機器、有機ELディスプレイ、電子部品
減収要因	EMS、スピーカーユニット

< 営業損益 >

前期比	7億円の良化
良化要因	売上増に伴う売上総利益増加(+6億円) 販売費及び一般管理費の減少(+4億円)
悪化要因	原価率悪化(-3億円)

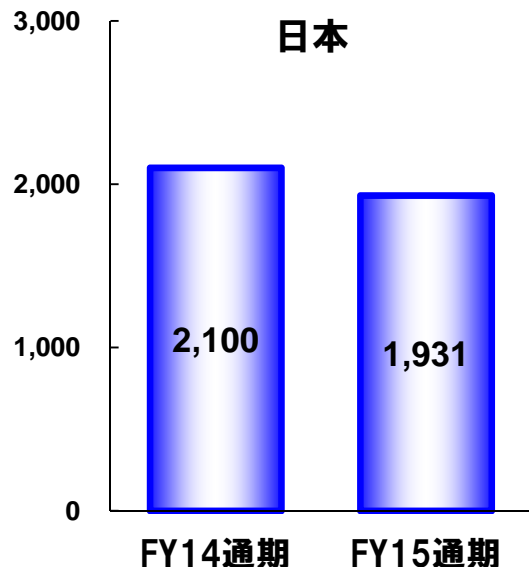
※ 当セグメントに含まれる主要製品:
FA機器、スピーカーユニット、電子部品、有機ELディスプレイ、
EMS(電子機器受託製造サービス)、地図ソフト

注) 1. セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表しています。

2. 従来「その他」に含まれていた電話機を、当期から「ホームエレクトロニクス」に含めています。これに伴い、前期の金額についても、当期の表示に合わせて組替表示しています。

2015年3月期：地域別売上高

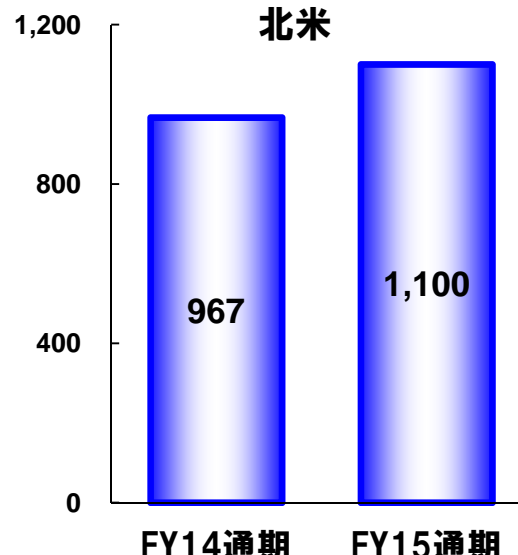
(単位:億円)



前期比
92%

増収要因
FA機器
光ディスクドライブ関連製品

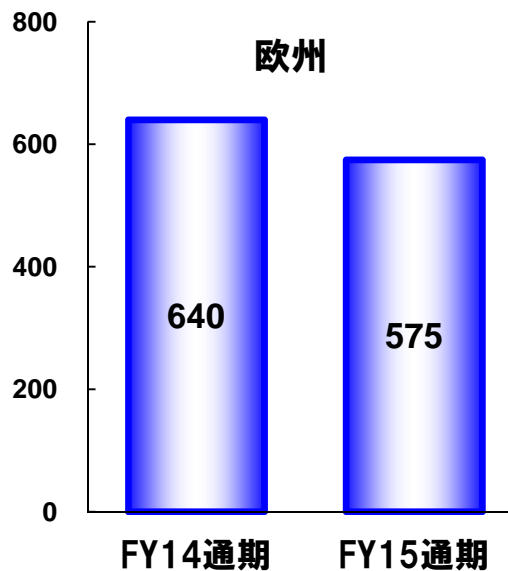
減収要因
市販カーナビゲーションシステム
OEMカーナビゲーションシステム



前期比
円ベース: 114%
現地通貨ベース: 104%

増収要因
OEMカーオーディオ
OEMカーナビゲーションシステム
市販カーオーディオ

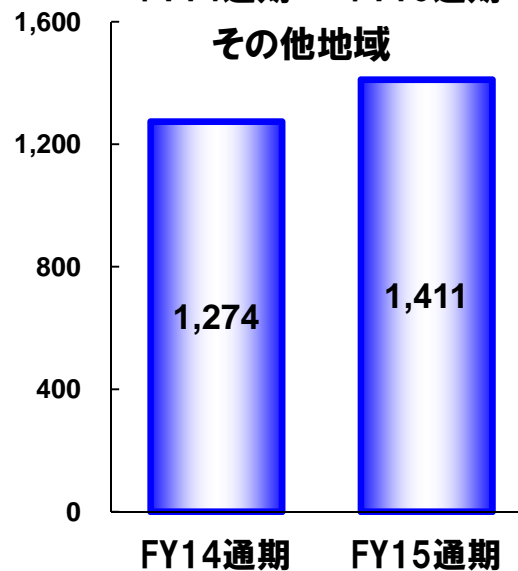
減収要因
ホームAV製品



前期比
円ベース: 90%
現地通貨ベース: 89%

増収要因
OEMカーオーディオ

減収要因
市販カーオーディオ
ホームAV製品
DJ機器



前期比
円ベース: 111%
現地通貨ベース: 105%

増収要因
OEMカーナビゲーションシステム
市販カーオーディオ
OEMカーオーディオ

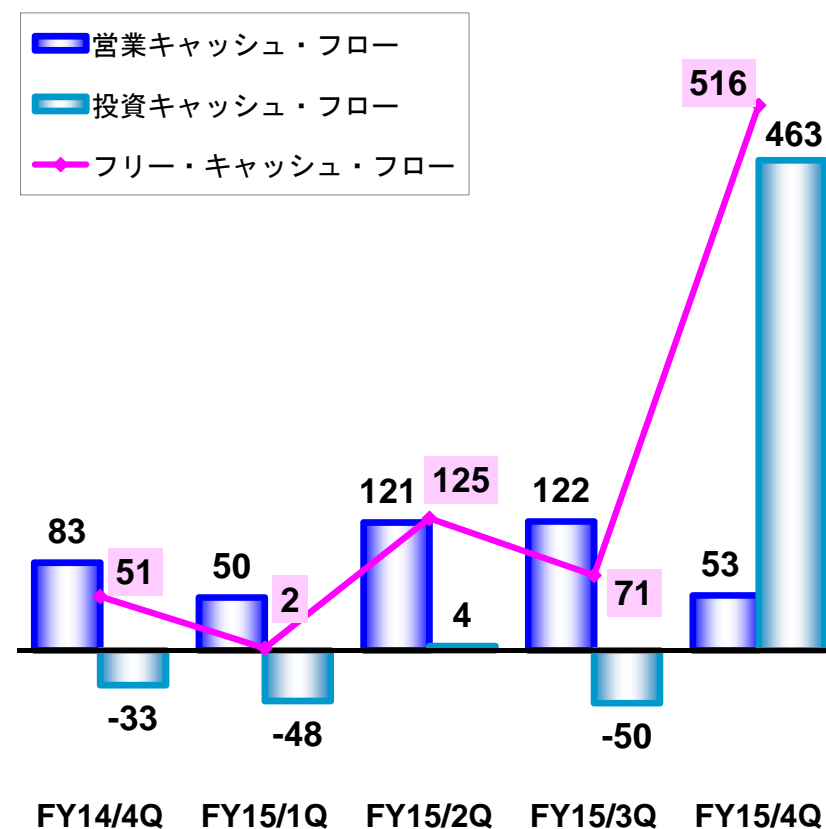
減収要因
ホームAV製品
光ディスクドライブ関連製品

2015年3月期：連結キャッシュ・フロー計算書

	FY15通期	FY14通期
税金等調整前当期純利益	252	57
減価償却費	235	249
退職給付引当金の増減(*)	-21	2
事業構造改善費用引当金の増減	-	-62
事業譲渡損益	-449	-
投資有価証券売却損益	-16	-
売上債権の増減	108	-86
棚卸資産の増減	39	98
仕入債務の増減	-38	113
未払費用の増減	162	30
その他	73	-57
営業キャッシュ・フロー	346	342
投資キャッシュ・フロー	369	-219
財務キャッシュ・フロー	-554	-9
現金・現金同等物の換算差額	18	14
フリー・キャッシュ・フロー	714	124

現金・現金同等物の増減	178	129
現金・現金同等物の残高	517	339
NETキャッシュ残高	174	-535

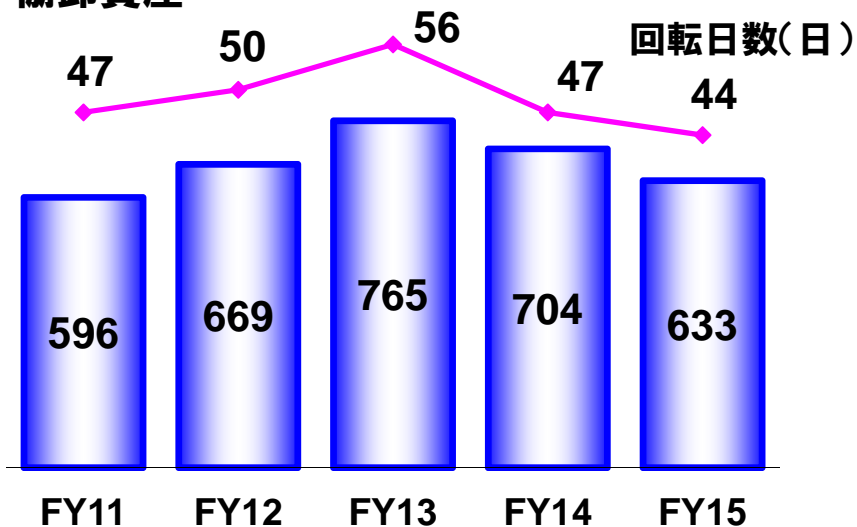
(単位:億円)



注) (*)「退職給付に係る負債の増減額」を含んでいます。

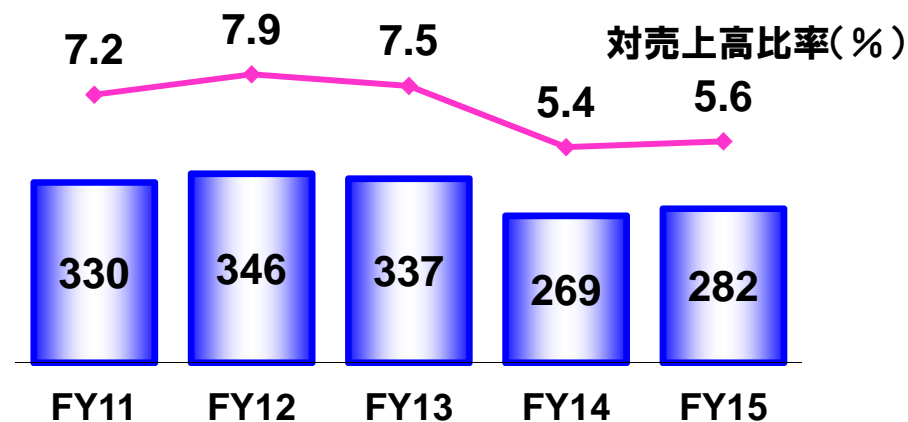
2015年3月期：棚卸資産、研究開発費、設備投資、減価償却費

棚卸資産

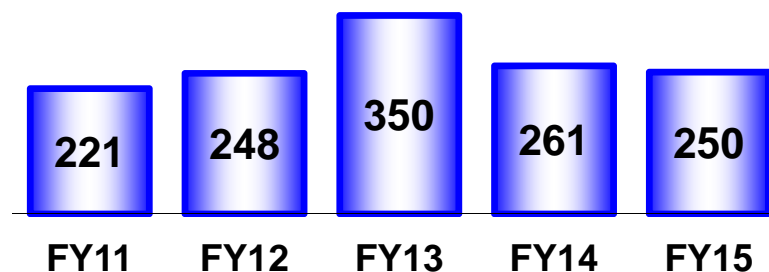


研究開発費

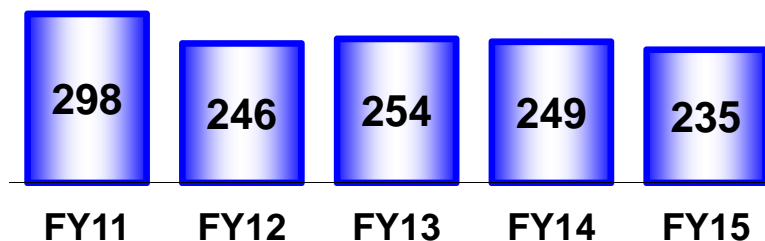
(単位:億円)



設備投資



減価償却費

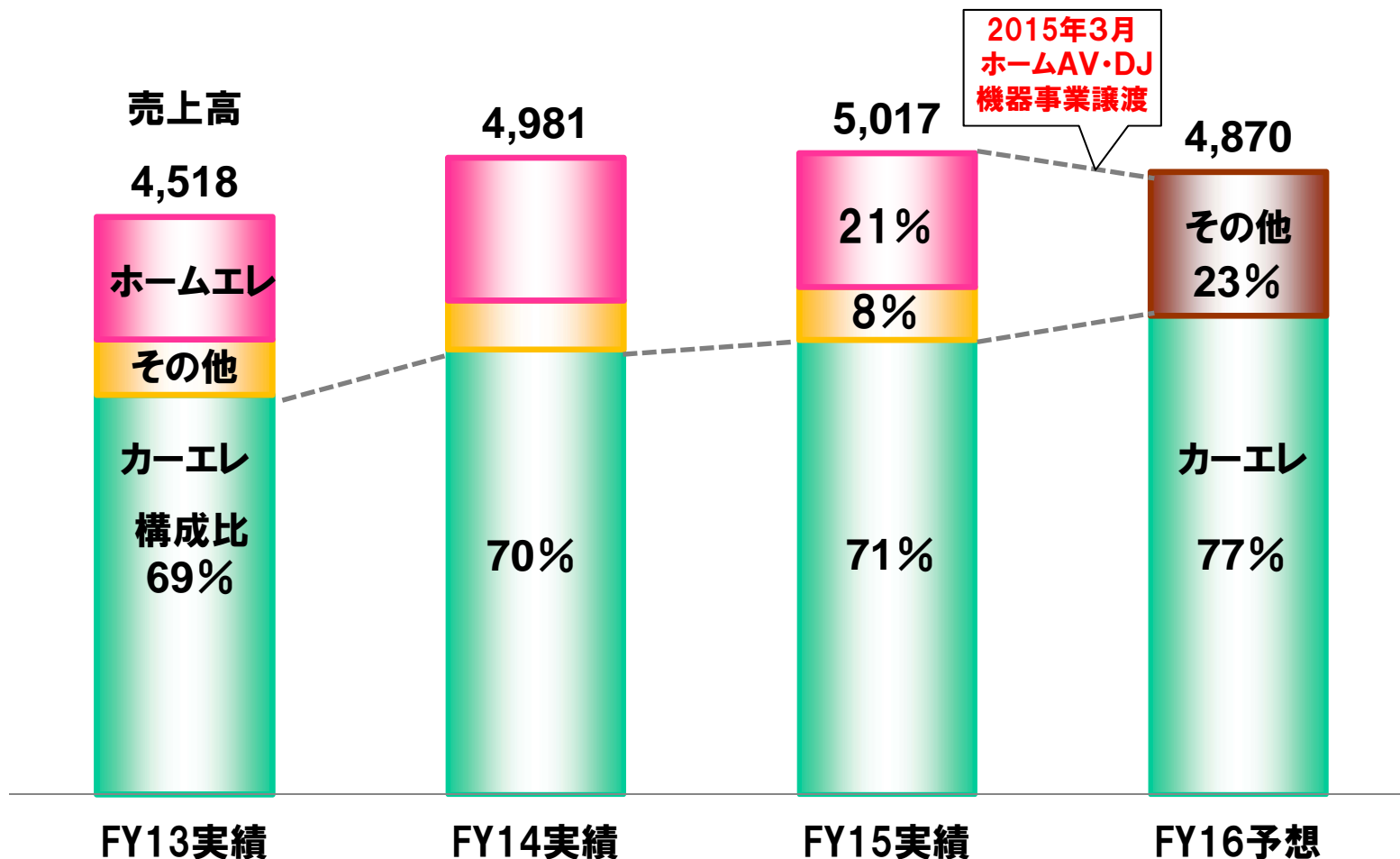


2. 2016年3月期連結業績予想

事業ポートフォリオの再編

ホームAVやDJ機器の事業譲渡により、
2016年3月期からはカーエレクトロニクス中心の事業体制へ

(単位:億円)



2016年3月期：連結業績予想

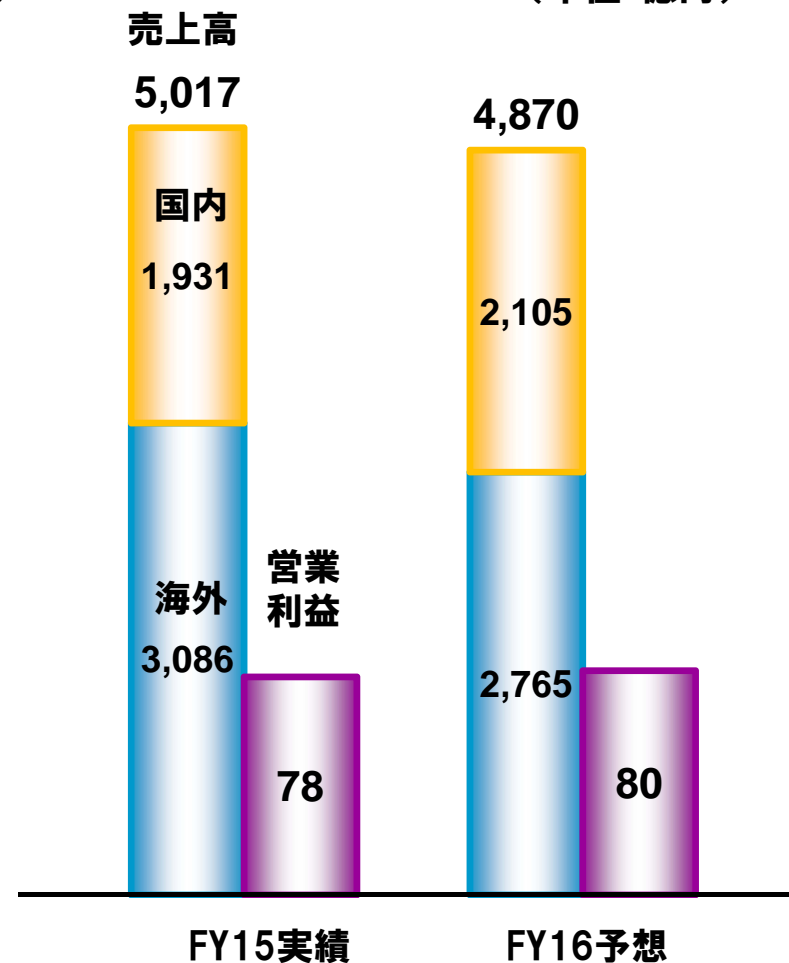
(単位:億円)

	FY16予想	FY15実績	前期比
売上高	4,870	5,017	97.1%
営業利益	80	78	102.9%
経常損益	60	-29	-
当期純利益	10	146	6.8%

為替平均 レート	1USDドル	120円	109.93円	+9.2%
	1ユーロ	130円	138.77円	-6.3%

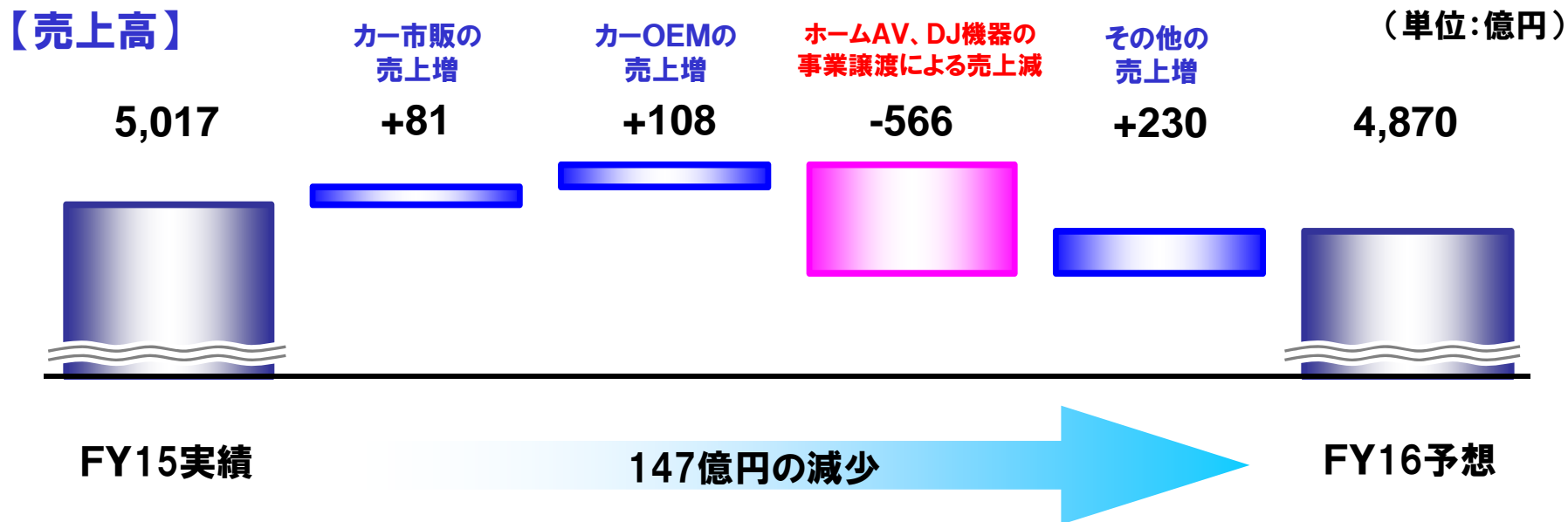
1株当たり純利益	2.72円	39.85円	-37.13円
ROE	1.0%	16.8%	-15.8%
1株当たり純資産	279.67円	277.05円	+2.62円
ROA	0.3%	4.5%	-4.2%

(単位:億円)



注) 1円の円安インパクトは、売上高では、USDドルは約22.4億円、ユーロは約2.1億円、
営業利益では、USDドルは約▲4.8億円、ユーロは約1.3億円。

2016年3月期予想：売上高 前期実績との比較

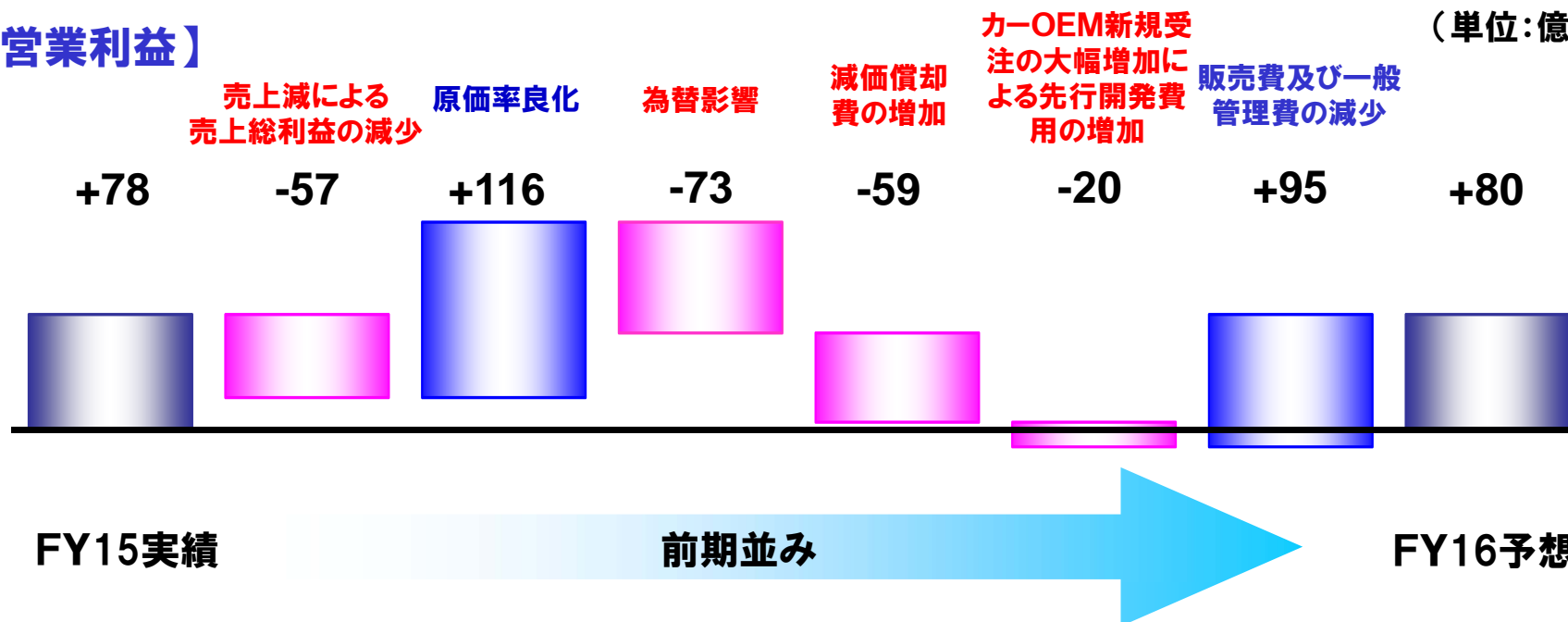


- ホームAVおよびDJ機器事業は、事業譲渡により減収
- カーエレクトロニクスは、新興国を中心に市販、OEMともに増収となる計画
- その他は、ホームAVおよびDJ機器の生産・販売受託を売上に計上することや、FA機器の受注増などにより増収を見込む

2016年3月期予想： 営業利益 前期実績との比較

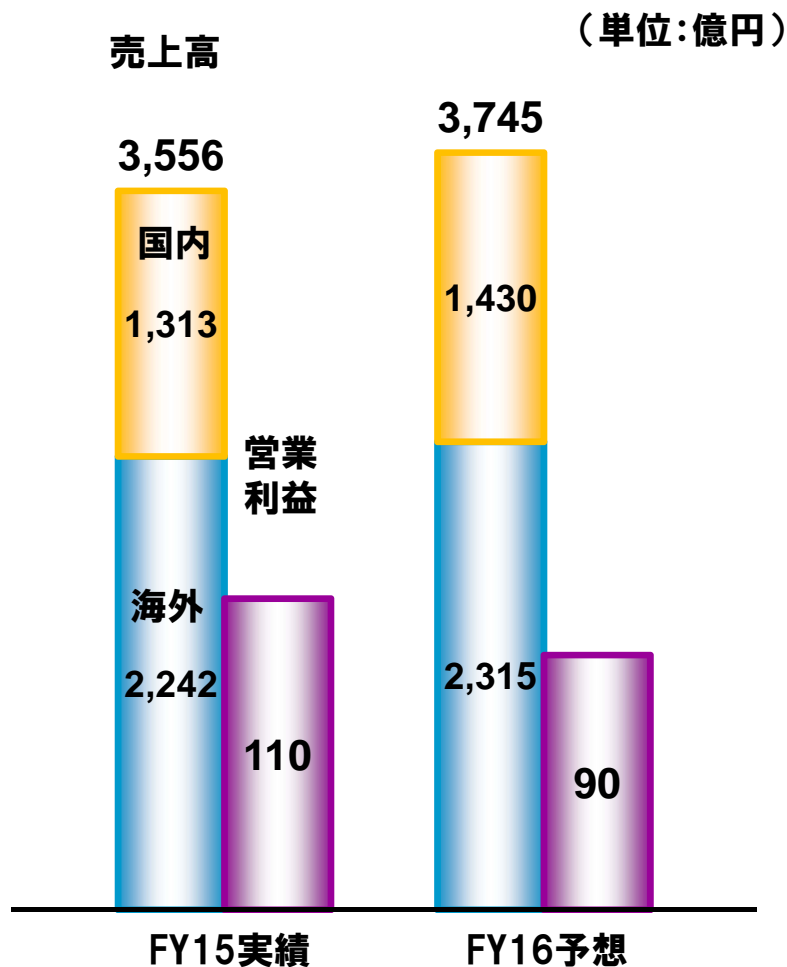
【営業利益】

(単位：億円)



- 売上減による売上総利益の減少
- 減価償却費とカー-OEM新規受注の大幅増加による先行開発費用が増加
- 開発効率の向上や開発コストの大幅削減、グループ全体のスリム化などにより、原価率の良化や固定費の減少を見込む

2016年3月期予想：カーエレクトロニクス



注)セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

< 売上高 > OEM比率 57% (前期 57%)

前期比	105% (国内 109%、海外 103%)
増収要因	OEMカーオーディオ (CD・AV・スピーカー) 市販カーオーディオ (CD・AV・スピーカー) OEMカーナビゲーションシステム
減収要因	特になし

< 営業利益 >

前期比	20億円の悪化
良化要因	原価率良化 (+70億円) 売上の増加 (+13億円)
悪化要因	為替影響 (-66億円) OEM先行開発費用の増加 (-20億円) 販売費及び一般管理費の増加 (-17億円)

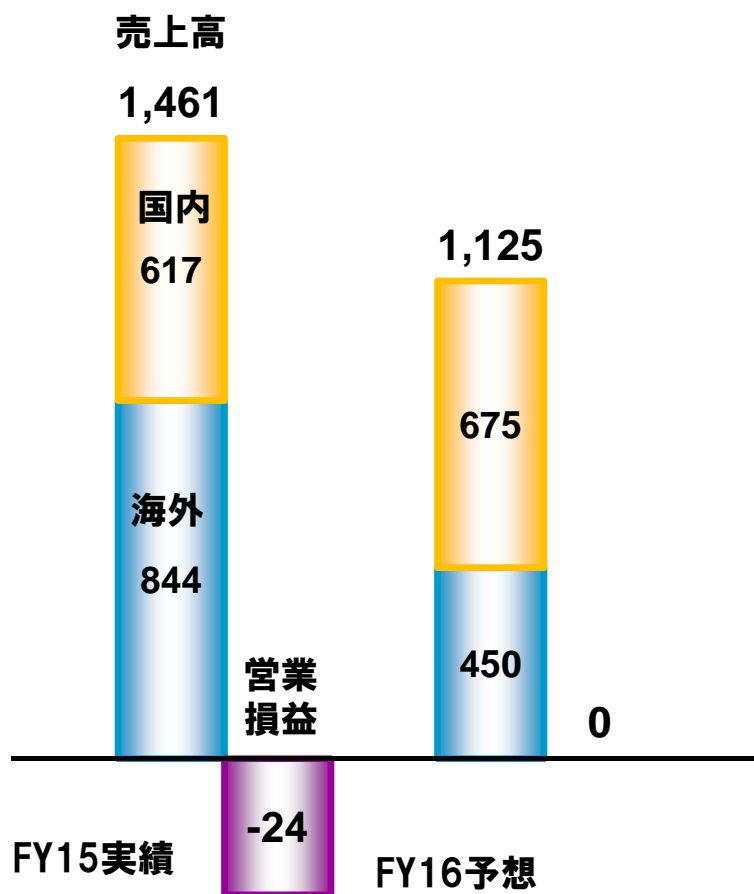
< 出荷台数 > (単位:千台)

	FY15実績	FY16予想
市販カーナビ	689	710
市販カーCD	7,557	7,230
市販カーAV	1,665	1,760

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
カーナビゲーションシステム、カーステレオ、カーAVシステム、
カースピーカー

2016年3月期予想：その他

(単位：億円)



< 売上高 >

前期比	77% (国内 109%、海外 53%)
増収要因	DJ機器(生産・販売受託) ホームAV(生産・販売受託) FA機器
減収要因	事業譲渡(ホームAV、DJ機器)

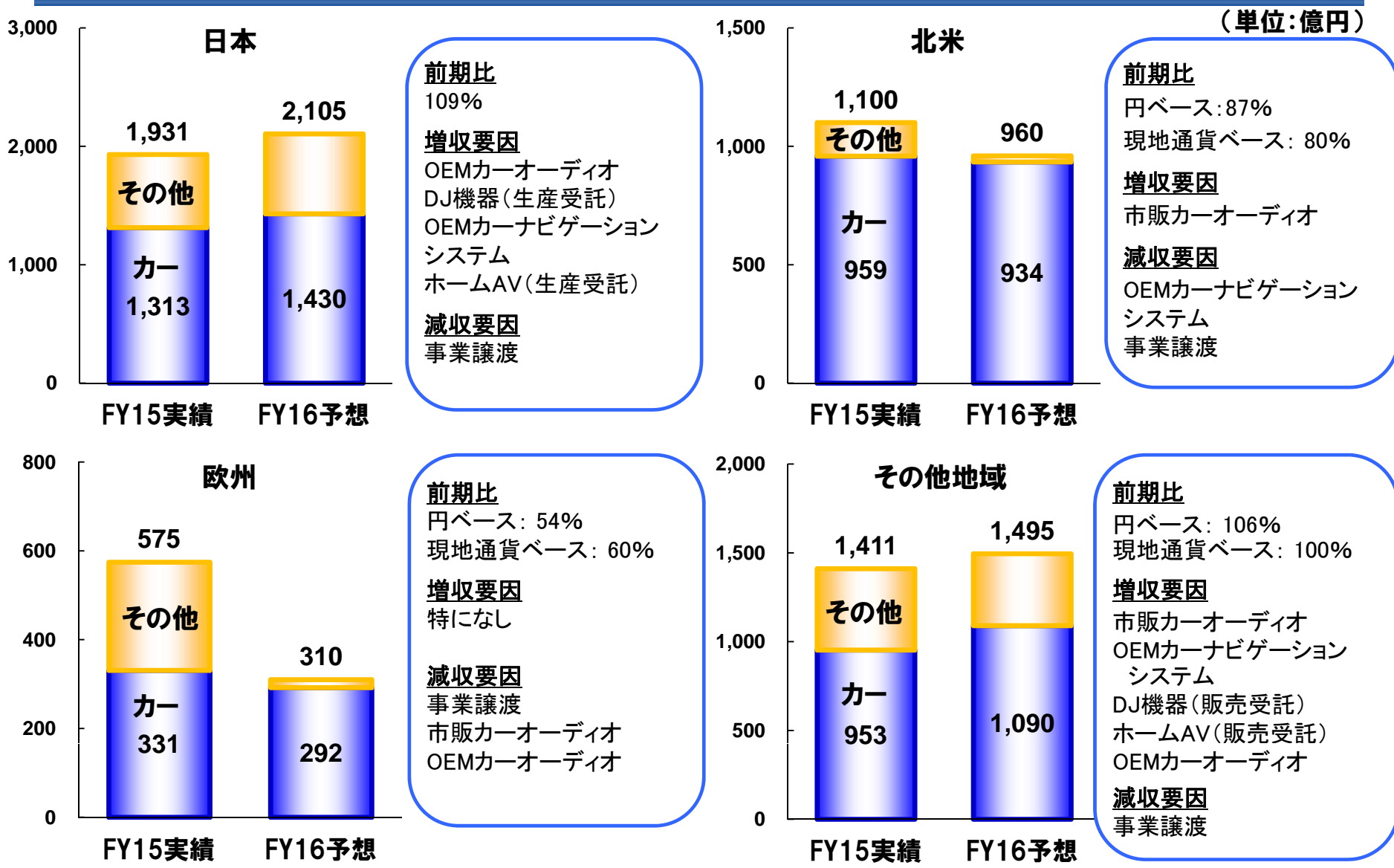
< 営業損益 >

前期比	24億円の良化
良化要因	販売費及び一般管理費の減少(+122億円)
悪化要因	売上の減少(-66億円) 原価率悪化(-25億円) 為替影響(-7億円)

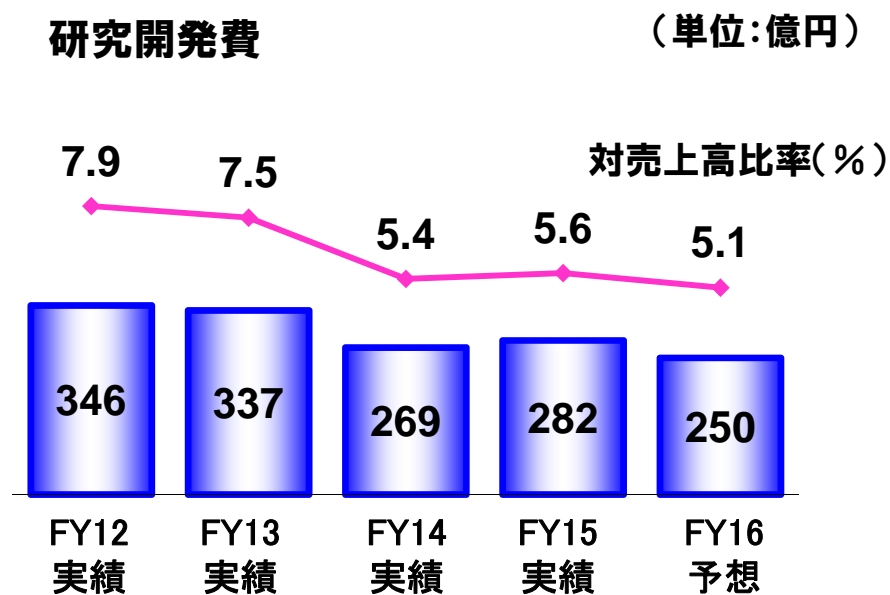
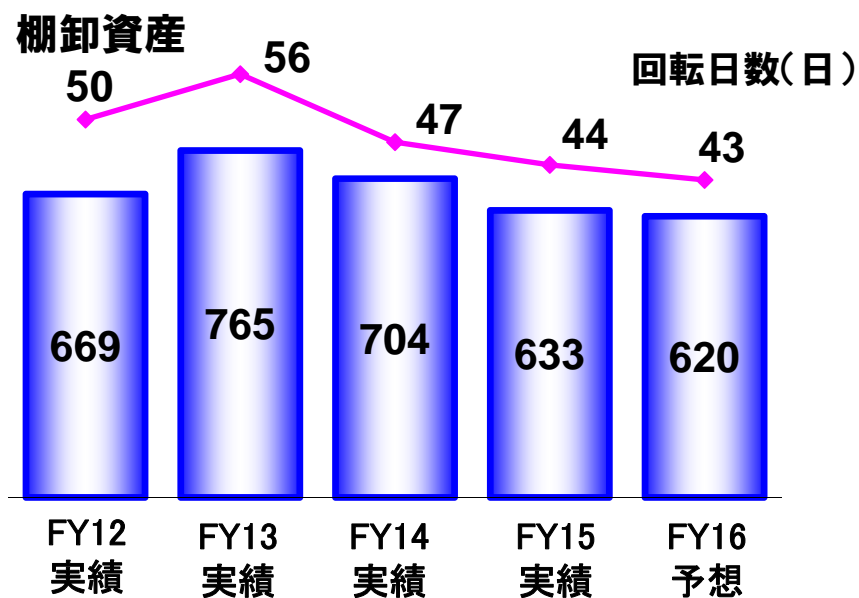
※ 当セグメントに含まれる主要製品：
ブルーレイディスクドライブ、DVDドライブ、CATV関連機器、
FA機器、地図ソフト、電子部品、スピーカーユニット、
有機ELディスプレイ、EMS(電子機器受託製造サービス)
DJ機器(生産・販売受託)、ホームAV(生産・販売受託)

注) 1. セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。
2. FY15の実績には、2015年3月に譲渡した事業の売上、営業損益が含まれています。

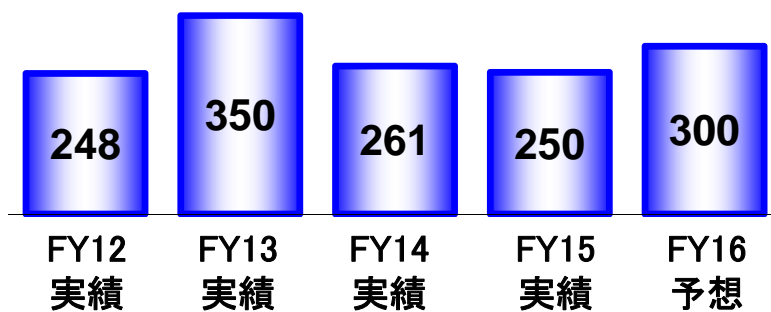
2016年3月期予想： 地域別売上高



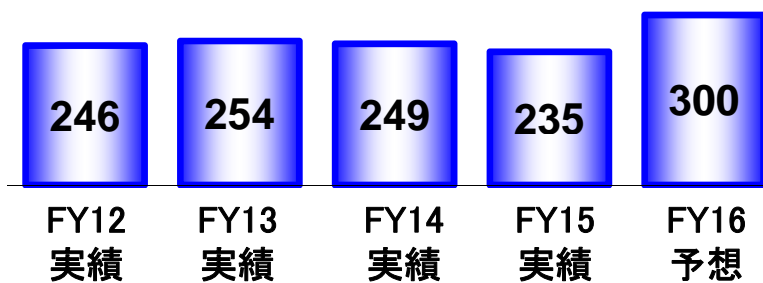
2016年3月期予想：棚卸資産、研究開発費、設備投資、減価償却費



設備投資



減価償却費



2016年3月期予想： キャッシュ・フローおよび財務指標

(単位:億円)

	FY14実績	FY15実績	FY16予想
営業キャッシュ・フロー	342	346	230
投資キャッシュ・フロー	-219	369	-300
財務キャッシュ・フロー	-9	-554	-120
フリー・キャッシュ・フロー	124	714	-70

	FY14実績	FY15実績	FY16予想
純資産	778	1,071	1,080
自己資本比率	22%	31%	33%
ネット有利子負債	521	-179	-100
D/E比率	1.2倍	0.3倍	0.2倍
現金及び預金	354	522	330

注) 1. 「投資キャッシュ・フロー」、「現金及び預金」には、3カ月超の定期預金を含んでいます。

2. D/E比率=有利子負債÷(純資産-少数株主持分)

3. トピックス

カーエレクトロニクスの今後の収益見通し

	中期計画 (2014年9月16日&11月7日)	発表後の変化ポイント	今後の方向
OEM	【カーエレコスト削減】 既存施策： ・生産拠点の再編 ・製品構造 標準化・共通化 + FY15追加施策： ・カーAVとナビの機種統合 ・生産間接業務現地化等 ⇒ナビの利益性改善 ⇒OEMの利益性改善	FY16にFY17以降のOEM 新規受注の大幅増加による 先行開発費用が発生	大規模な新規受注による売上はFY17 第4四半期から発生。順次、売上拡大 に伴う限界利益増加により、OEMの利 益性改善
市販		コスト削減は計画どおりだ が、国内市販ナビの売上減 によりナビの収益改善計画 に遅れ	
為替	【前提】 1USドル = 105円 1ユーロ = 135円	【前提の変更】 1USドル = 120円 1ユーロ = 130円	各地域での高い市場シェアをベースに、 為替状況に応じた値上げ実施および新 興国での売上拡大により利益性維持
			為替対策として、FY16下期から市販ナ ビを先行して、国内へ生産移管

* Appleは米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。 * GoogleはGoogle Inc. の登録商標です。

テレマティクスサービスによる業務用事業に本格参入

業務用カーナビが未装着の車両(約80%の法人車両)に対し、車載機に加え、市販で実績を積んだクラウドサービスを4月より本格導入することで、国内市場での新たな事業拡大を図る

業務用クラウドサービス『ビークル・アシスト』とは、ナビゲーション端末を単なるナビゲーション端末としてではなく、車両情報通信端末としてフル活用した、営業系・配送系の業務運行“管理”の徹底と運行“支援”強化を図る次世代型サービス。今後、端末ラインナップおよびサーバー連携サービスを随時拡充予定

パートナー様の
サービスサーバー

月額サービス利用料

Vehicle Assist
ビークルアシスト

業務用車載端末

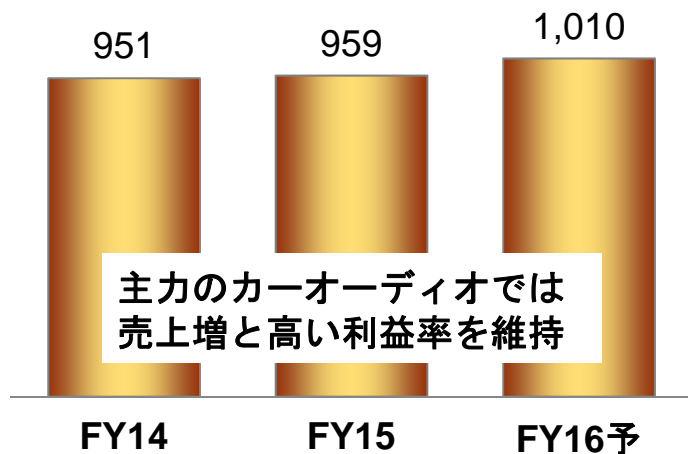


運行管理の徹底

運行支援の強化

海外市販カーオーディオ(CD・AV・スピーカー) 地域別売上推移

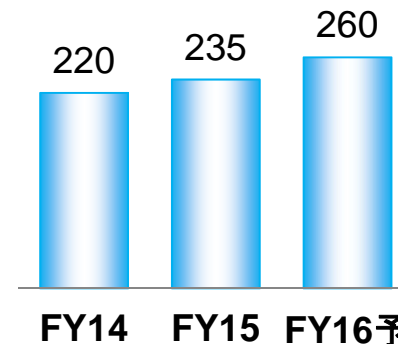
海外市販カーオーディオ合計



主力のカーオーディオでは
売上増と高い利益率を維持

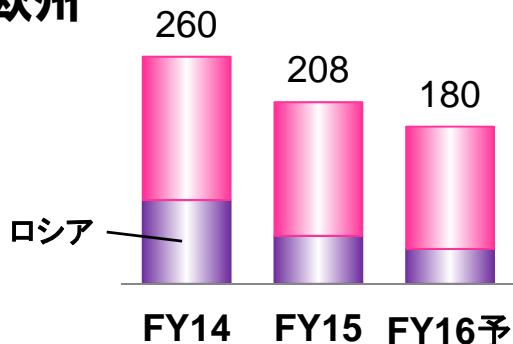
(単位:億円)

北米



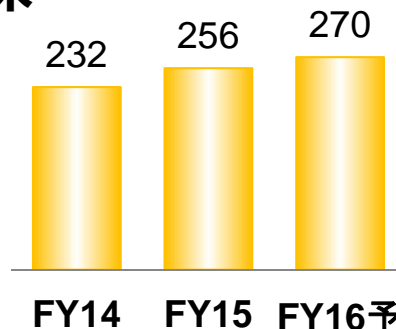
- ・FY16は10%増収計画(FY15比)
- ・好調な自動車市場を背景に、カーAV製品が成長をけん引

欧州



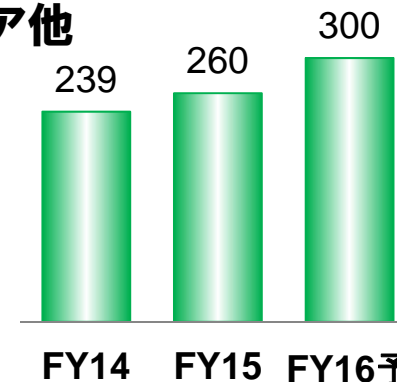
- ・FY16は14%減収計画(FY15比)
- ・自動車市場低迷の続くロシアでは、ルーブル安に対応し値上げを実施

中南米



- ・FY16は6%増収計画(FY15比)
- ・ブラジルは、市場環境が悪化する中、トップシェアを堅持
- ・メキシコ市場が好調に推移

アジア他



- ・FY16は16%増収計画(FY15比)
- ・インド、アセアン等でのカーAV市場の活性化により販売が伸長

Pioneer